

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第1回安心部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て満足度日本一」について、子どもにとっての「子育て」の満足度も含んでいると思うが、子ども側の満足度も日本一を目指して欲しい</li> <li>・子どもの満足度を図るのは難しいが、「この家族に生まれてよかった」、「大分県で育てよかった」となるのが一番、それをプランに入れて欲しい</li> </ul>
2	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てのよいところの情報発信をもっとすべき</li> <li>・指標が達成されないところにフォーカスされるが、数値指標の問題は、好例が隠れてしまうこと</li> <li>・指標が低くても、携わっている人の満足度が高ければ、その指標は決して低くない</li> <li>・もう少し定性的な評価・好例に加え、それ以外の価値についても課題を両面から評価すべき</li> </ul>
3	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の制度の都合上、職場復帰を早めることになった</li> <li>・自営業であれば対応できるかもしれないが、企業等の共働き世帯では困難も</li> <li>・制度の隙間を埋めるきめ細かな仕組みを考えて欲しい</li> </ul>
4	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての負担が女性に偏っており、特に離婚の場面に現れる</li> <li>・母子手当は離婚成立により支給となるが、離婚成立までの間、女性の生活が困窮することも</li> <li>・行政として女性への支援ができれば、女性が安心して生活し、子どもを産むことができるのでは</li> </ul>
5	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルマザーでも貧困でも安心して子育てできる支援、社会全体みんなで育てるという状況が必要</li> <li>・結婚が継続できないのではという不安を抱く若い人も多く、安心できる対策を打ち立てていただきたい</li> </ul>
6	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待をした親も悪いが、背景として要因は偏っている</li> <li>・虐待する家庭の環境は似通っており、シングル家庭でお金がないといった傾向が強い</li> <li>・女性、シングル家庭だけに負担が偏らないよう、社会全体で子育てする仕組みづくりが必要</li> <li>・法律を駆使しても限界があるため、行政の力が必要</li> </ul>
7	子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とつながりながらの子育てが重要</li> <li>・これまでの子育ては地域に支えられていたが、親の責任として、地域を支えるということも必要</li> <li>・幸せな子どもを増やす、幸せな子どもを産み育てることができる大分県であるべき</li> <li>・児童虐待等が増える中、結婚すること、親になるということはどういうことかなどを見せるべき</li> </ul>
8	認知症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府も認知症大綱をとりまとめようとしているが、その中で数値目標を掲げようとしている</li> <li>・指標としては認知症にかかるものがないが、県としても国に準じて見直しをして欲しい</li> </ul>
9	人材不足 (福祉人材)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムなどの中心で動いている福祉人材が足りないため、養成も含め支援を</li> <li>・福祉人材を養成する専門学校や短大が定員割れとなっており、養成校がなくならないよう行政でも考えて欲しい</li> </ul>
10	指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順位を指標におくと、例えば障がい者雇用のように、雇用は増えたのに、順位が下がると評価は低くなる</li> <li>・安心で3つの日本一を掲げているが、指標としては県民自らが参加、取り組めるものにすべきではないか</li> <li>・高齢者自身が自分たちで目標を持って取り組めるようなものなど</li> </ul>
11	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内で日頃からコミュニケーションをとるようにし、つながりを作ることで地域が自分事になる</li> <li>・地域が動き出すことで、地域に魅力が生まれ、移住者も出てくる</li> <li>・日頃からの付き合いを支援できるような仕組み、そのような活動をしたい若者の支援が必要</li> </ul>

No.	項目	発言要旨
12	施策体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策における「つながりを実感する地域社会」は、今の感覚では「ネットワーク・コミュニティの構築」に含まれていることではないか</li> <li>・「つながりを実感する地域社会」は「犯罪に強い地域社会」につながるなど、項目が必ずしも並んでおらず、カテゴリーを見直すべき</li> </ul>
13	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時、日常のつながりがないと助からない</li> <li>・災害を入口として人づくりや地域づくりをすべき</li> <li>・人々がその地域で暮らし続けられることを目指し、災害を通して色々な環境整備を進めるべき</li> <li>・少子高齢化は、国より大分県の方が進んでいる状況であり、国が示すものより進んだ仕組みをつくり、取り組んでいくべき</li> </ul>
14	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化は深刻で、免許返納すると地域では動きが取れない</li> <li>・特に中山間での高齢者の足がどうにかならないか</li> <li>・地域におけるつながりのためサロンを実施しているが、その支援もなくなっている</li> </ul>
15	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭などの地域行事は、お金を出すから住民が集まるというものではない</li> <li>・防災訓練等も、お金が出るから集まるというものでなく、それに取り組む意義づくりが重要</li> </ul>
16	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「低下する集落機能を補完する取組」をどれだけ市町村が取り組んでいるかということ指標とすれば、直接測れる指標になるのではないか</li> <li>・由布市では全ての社会福祉法人と社会福祉協議会を組織化し、地域活動等に取り組んでいる</li> <li>・インパクトのある指標にすべき</li> </ul>
17	NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOは行政や企業と違い、受益者(困っている人、地域、課題)を相手として活動しているため資金に乏しく、そのためNPOには支援者が必要</li> <li>・支援者からは補助金等をいただき、協働として事業実施し、成果として満足度を支援者に返す</li> <li>・NPOは、寄付や委託など収入が限られているという現状で活動していると理解して欲しい</li> </ul>
18	NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOは県内で500法人もあり、支援する人もどの団体がどのくらいあるのか、わかりにくい状況</li> <li>・NPOの活動の種類や頻度など、整理し見える化してはどうか</li> <li>・寄付したい方が、どのような活動をしているかわかりやすいマッチング、またはクラウドファンディングの仕組みができないか</li> </ul>
19	NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOは活動する際、強い思いがあるため瞬発力はあるが、逆に組みづらいことも</li> <li>・そのため、コーディネータ的な役割を果たす中間支援が必要</li> <li>・NPOの成果は見えづらいため、中間支援に対する協働の資金はあまりない</li> <li>・中間支援のような人つなぎへの部分にも、協働の一部として支援して欲しい</li> </ul>
20	防災 (避難訓練)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は、その内容、対象者、目的などが重要であり、具体的に決めた上で実施すべき</li> <li>・訓練の状況調査の際に、併せてそれも調べて欲しい</li> <li>・おしかけ支援隊のやっていることが必要なことかどうか疑問</li> <li>・各市町村毎の特徴、実情に合わせた訓練等の企画・実施ができるようにすべき</li> </ul>
21	防災 (避難行動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難においては、逃げるという施策以外の要因が大きい</li> <li>・避難のしやすさ、避難施設の状況、避難先の見直しなど、色々な施策の組み合わせが大事</li> <li>・防災は総合政策</li> </ul>
22	防災 (要援護者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者の避難計画作成は、防災部局のみでは厳しい</li> <li>・行政が土木、福祉等との横の連携をとり、その地域の人々をきちんと見据えた訓練をすべき</li> <li>・県も横のつながりを持った形で、市町村と一緒にやって欲しい</li> </ul>
23	防災 (防災士)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の防災士育成の内容には厳しいものがある</li> <li>・研修等の内容を見直し、研修を受けた住民が実際に活かせるような内容にすべき</li> </ul>

No.	項目	発言要旨
24	防災 (防災士)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災士は、勉強する機会としては非常によいが、具体的に何をやるかがわからない</li> <li>・福祉との関係は極めて重要</li> <li>・南海トラフ地震の臨時情報が発せられた場合、要支援者の対応が非常に難しい</li> <li>・地域ごとにオーダーメイドの対応ができるようにすべき、それが防災アドバイザーのあるべき姿</li> <li>・そのようなコンサルタント業務に近いような仕組みを、大分県版として作ってもよいのでは</li> </ul>
25	防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は自主防災組織の避難訓練実施率100%元年とすることを目指して取り組んで欲しい</li> <li>・海岸部と内陸部では温度差がある</li> <li>・防災士の横の連携がない</li> <li>・各市町村の防災士の組織の実態を調査し、活性化させるため、各市町村の幹部を集め避難訓練を進めて欲しい</li> </ul>
26	防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップを作っていただき説明も受けたが、ため池等はいつ壊れるかはわからない</li> <li>・ため池が決壊したことがわかるセンサーの設置など、マップ作成後の対策も必要</li> </ul>
27	県土強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土強靱化地域計画の話も、不断の見直しと、リスクの高まりなど、経常的に平時からモニタリングできるような仕組みが求められる</li> <li>・本当に必要なインフラかどうかという視点も必要</li> </ul>
28	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達への教育を充実させる必要</li> <li>・先端技術の世界的な動きを学ぶ機会など</li> <li>・防災、教育、福祉を切り口として進めることも可能</li> <li>・教育の役割と責任は極めて大きい</li> </ul>
29	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育にはお金をかける必要がある</li> <li>・お金がなくて大学に行けないような子どももいる中、優秀な人材が外に出ず残ってもらうよう、奨学金減免等を検討してはどうか</li> </ul>
30	人口減少 (女性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県は若い女性が少ないことが出生数低下に関係している課題であり、女性にフォーカスした政策を進めてはどうか</li> <li>・女性が暮らしやすい環境など、しっかり調査をし、どうやったら福岡から若い女性が帰ってくるかなど、真剣に議論してほしい</li> </ul>
31	指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が進行する中、大きくなっていく、発展していくというだけでなく、どう、身の丈に合った形に再編していくのかも重要</li> </ul>